

朝の礼拝

聖書 ヨハネによる福音書 3章8節（新約聖書 164 頁）

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。

わからない

以前、礼拝で中学1年生が四月の修養会の感想を話してくれました。その中で「祈りは自分の願い事ではなく、神様の御心を求めることと学びました」と話していました。まさに「霊から生まれた者」とはそのように神様の御心を求め、それを行う人のことです。

いま読んでいただいた箇所は、イエスと対立していたファリサイ派の教師のひとりニコデモとの対話からです。ニコデモは名門出身、敬虔な教師の鏡でした。とても真面目で誠実な人だと思われます。しかし彼は夜、密かにイエスを訪ね、自分に核心がもてないこと、自信のなさを吐露します。

イエスは霊を風にたとえました。神様から吹く風は青葉が輝く爽やかな風のように順風満帆の時も、凍えるような北風にじっと耐えるような逆風の時もあるでしょう。でも聖書ではつむじ風と共に、神様が語りかける場面が多いのです。突風です。神様の風はいつ吹くのかわからないのです。

音は聞こえてもとは聖書の言葉を聞いても、神様の御心はわからないということです。でもわからないから御心を求めて、聖書に聴き祈り求め続け、無意識のうちに神様への信頼を深めていくのではないのでしょうか。ニコデモはこの後、確かに自らの行動でそれを証していきます。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたの深い憐れみによって赦され、生かされている恵みを感謝します。あなたは正しく、清く生きるニコデモに、新たに生まれる、霊によって生まれる者について話されました。霊は風のようなものです。どうかあなたから吹く風を受けて、あなたへの信頼を深め、生かされている喜びに与らせてください。いま教育実習生が学びを終えられます。どうか皆さんのこれからの良き糧としてください。また英和生はこれまでの学びをふり返る時が近づいています。良きふり返りの時を与えてください。そして今日は沖縄戦から八十年目を迎えます。しかし世界は愚かにも今も争いを繰り返しています。どうかわたしたちを平和の器として用いてください。また今、病にある方々を覚えて祈ります。どうかひとときでも早く共に感謝を献げる日を迎えることができますように導いてください。今日一日も、すべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン